

*Key
Person*



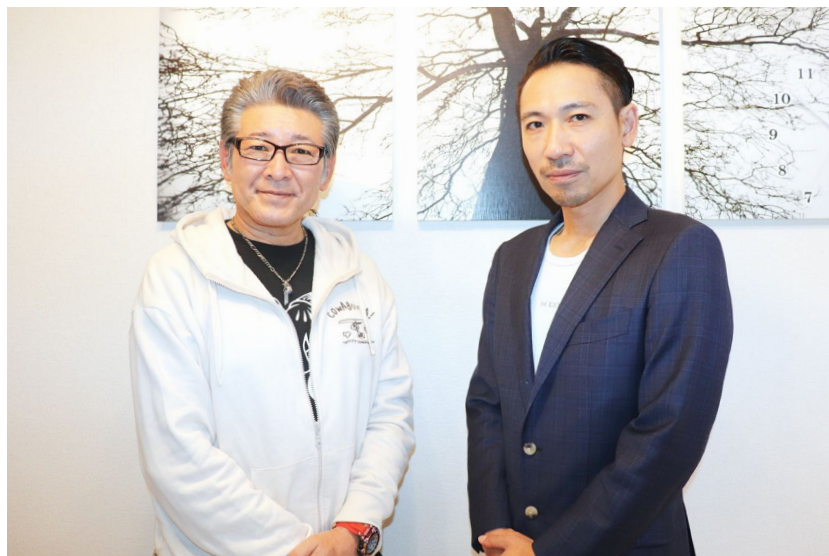
(株)ものノふ JAPAN 社長執行役員

栗原 渉

若いころは気持ちばかりが急いて、大切なものを見失っていたと語る栗原社長執行役員。
10年の歳月で多くのことを失ったが、
同時に学びも得て、今の自分が形づくられたという。
常に挑戦すること、そして目の前の物事に全力で取り組むことの大切さ——
その気づきを疎かにすることなく歩む中で、沢山の出会いもあった。
一つひとつのご縁に感謝しながら、
同志とともに一歩でも成長し、それぞれが願う幸福を得ること。
そして、その輪を広げていける企業であり続けることが、社長執行役員の目標だ。

「同志と成長し、それぞれが願う幸福を得る。
そしてその輪を広げていける企業であり続けたい」

ゲストインタビュー（タレント）
布川 敏和



『ものノふJAPAN』社長執行役員
栗原 渉

special

interview

歩む中で出会った人々への感謝を胸に 相互成長と幸福の輪を広げていきたい

建築工事と高速道路メンテナンスの二本柱で、人々の快適で安心な生活を支えている『ものノふJAPAN』。栗原社長執行役員は常に挑戦することや、目の前の課題に全力で取り組むことを大切に、歩む中で出会った同志との相互成長と、各々が願う幸福の実現を目指して前進を続けている。タレントの布川敏和氏が、社長執行役員の人物像や事業への思いに迫った。

悩み失う中で得た学びを大切に 父親と新たなスタートを切る

——栗原社長執行役員のこれまでの歩みからお聞かせいただけますか。

ここ茨城県出身で、大工として働く父の背中を見ながら育ちました。『ものノふJAPAN』は1985年に父が創業した事業がベースになっており、私が新たな会社としてスタートしたんですよ。——そうだったんですね。では、社長執行役員もお父様と同じ大工の道を志され



て今に至ったのでしょうか。

いいえ。当時は大工は全く考えていませんでしたね。学生時代、勉強に身が入らなかった一時期に父と一緒に働いていたこともあるんです。ただ、若かったこともあり、仕事も含め自分には何ができるのか、何をすべきなのかと上ばかり見て、自分自身や周りの環境に目や耳を傾けることができませんでした。

——若いころはなかなか身近なものの大切さに気づけないものですね。それでは、どのような道を選ばれて？

家具職人です。10年ほど腕を磨く中で、私を支えてくださった方々には本当に感謝していますし、自分の人生を見つめ直す良い機会になりました。ここで得たものは今後もし他の道を選ぶことがあったとしても必ず人生に役立つはずだと信じて、まずは目の前の、自分ができることに全力で取り組むことにしました。時にはどうしても「遠回りしているのではないかな？」と別の選択肢を考えたり、迷っ

たりしたこともありましたが、これは自然な感情だからと自分に言い聞かせました。失敗すらも糧になる。手を抜いたらそれこそ無駄になってしまう。迷うのは良い。ただ目の前のことに全力で挑む。今の環境に感謝して関わる人間を大切に——そのことに気づけた時間でした。

そして37歳の時に地元に戻り、これまでの感謝の気持ちとして父に「一緒に事業をしよう」と提案し、父を代表にしてスタートしたのが当社です。今は父の建築工事と、私の高速道路メンテナンスの二本柱で事業を推進しています。

多くの同志を得た今——

共に歩み続け、その輪を一層広げる

——高速道路メンテナンスは、どういったきっかけでスタートされたのですか。

将来的な独立を視野に事業柱を模索していた時に、地元で根差して、且つ父と一緒に事業をするなら建設関連の仕事がいいだろうと思いました。そんな時に知人を通じて高速道路メンテナンスの作業員としてこの仕事に携わり、可能性を感じたんですよ。それでまずは個人事業主となって、1年かけて仕事を覚えながら人脈を構築しました。そして法人化した



次第です。スタート後は昼は現場に立ち、夜は事務作業、とがむしゃらに働きました。何せ仕事も経営も素人でしたから。——努力を重ねられたわけだ。素人質問で恐縮ですが、高速道路メンテナンスとは、どのような作業をするのでしょうか。

高速道路を走っている時に、オレンジ色の作業服を着た人を見たことがありますか？ 主に高速道路維持管理業務として樹木の伐採や草刈り、構造物の設置や補修などを行っているのですが、それが高速道路メンテナンスの仕事なんですよ。建設業であり、サービス業だと考え、高速道路を利用するお客様を意識しながら作業を行っています。安全・快適に利用するために欠かせない仕事です。

——御社のような企業の方々のお陰で、私たちが安全に高速道路を使っているわけだ。危険で大変なお仕事ですが、よく1年でノウハウを身につけられましたね。

その点は優秀な社員たちに助けられています。一人ひとり得意分野を持つメンバーが集まってきてくれました。私より知識や技術力に優れている人ばかりで、力を貸してくれている皆には感謝の思いが尽きませんし、引き上げてくださった元請会社の所長を含め、ご指導くださった社員の皆さんにも感謝しています。現在、父も建築工事で活躍してくれており、良い距離感で働いていると感じます。——社員さんは何名おられるのですか。

14名です。造園や伐採も含めて住宅関係なら何でもできる人や、プラント工事の現場や足場工事などで現場責任者を務めてきた者など、人材の層が厚いことも当社の強みの一つです。そういった主力メンバー4人の下で若い衆が動く形です。各自の特技を活かして総合建設会社として地盤を築くことが目標です。

——若い職人さんも色々な技術を学ぶこ

株式会社 ものノふJAPAN
【本社】茨城県結城市新福寺 1-11-6
【営業所】栃木県小山市犬塚 8-16-16 クレメント B202 号室
URL：https://mononofujapan.com



COLUMN

上の写真は『ものノふJAPAN』で活躍する社員の皆さんの集合写真だ。どなたも自然体で、その生き生きとした笑顔からも、同社がとても働きやすい環境であることが伝わってくる。栗原社長執行役員は対談で、社員の皆さんに対する感謝の気持ちを何度も語っており、彼らとのご縁を大切に今後も様々な取り組みをしていくつもりだ。

例えば、「もし独立したいという社員がいれば、応援します」と社長執行役員。それが建設業以外の道に進むための退職であっても、協力できることは協力し、繋がりを保つ構えだ。「皆で力を合わせて、今後も広がっていききたいですね。そのためにもお互

た見え道が別れようとも
それがご縁の終わりにならないように

いに信頼に足る人物なのかどうかを、仕事を通じて見極めたいんです。私ももちろん皆を見ますし、皆も私のことをしっかりと見定めてほしい」と続ける。また、対談で技能実習生について話が及んだ時、「5年経つと1年ごとに更新でき、永住ビザを取ることも可能です。そうした面も含めてサポートしたい。もしベトナムに帰国することになってもそれで終わりではなく、当社がベトナム支社を出して任せることで繋がりを継続させていければ嬉しいですね」と語る。

相手の幸せを願いつつ、ご縁を育み続ける社長執行役員なら、今後も一層、その輪を広げていくに違いない。

とができますね。

そうですね。ただ、時には世代間のギャップを感じる時もありますから（笑）、各自に合った指導方法を取り入れるようにしていますよ。また、ベトナム人の技能実習生も活躍してくれています。すでに実習を3年終えていますから、日本語が上手で日本の文化にも慣れていて、スムーズにコミュニケーションが取れます。とても真面目でやる気に溢れており、戦力としてとても助かっていますね。——今後がますます楽しみです。どのような展望をお持ちですか。

建設業界は人材不足が課題です。それを解消するべく、やりがいと賃金向上に一石を投じる企業になりたいと思います。そのためには会社としての体力や専門技術、信用が不可欠ですから強化していきたいです

ね。また、今後新たな事業柱として、飲食事業や介護・福祉事業の分野へ挑戦したいと考えているんですよ。もし今後当社で建設業以外の仕事がしたいという社員が出た時に仕事の選択肢があれば、長くご縁が続きますし、私としても嬉しいです。

（取材／2022年10月）

after the interview

「裏表なく、真っすぐに人と向き合うこと」を大切にしているという栗原社長執行役員。対談でも、自分の言葉で印象的だった。社員の皆さんも、そんな社長執行役員だからこそ一緒に働きたいと感じておられるのだと思います。これから強い絆で事業をさらに発展させていくことを楽しみにしています。布川敏和・談